

数年前のNIE全国大会で、「なぜ新聞を使って漢字の勉強をしなければならないのか。図書館の本を使えばよいではないか」との趣旨の発言をされたパネリストがいましたが、新聞を使うのと本を使うのとでは、大きな違いがあります。漢字を身に付けるうえで新聞が良いのは、「生きた教材」だからです。

新聞は日々、社会の新しい出来事について報道や論評をしています。つまり、まず内容や言葉が「新鮮」だということです。月刊誌には1カ月ほど前からのことが、本ではそれよりもさらに以前の出来事が書かれています。教科書に至っては数年前のことが取り上げられます。一方、新聞では当日や前日の出来事が記事になります。食材にたとえれば、市場に並んだとれたての魚介類や青果物です。

さらに、記事に書かれている内容が虚構ではなく、実生活の中での現実の出来事だということです。漢字学習のある本には、「人」の項目で、「人口何人というのは、そこに住む人の数です」と出ていました。一方、4月2日の朝日新聞夕刊（東京本社発行4版）には、「日本人親子3人 逃走車と衝突死／米・アリゾナ州」という見出しの記事で、「日本人家族の乗ったバンにピックアップトラックが正面衝突、日本人3人を含む5人が死亡した」とありました。こちらのほうが印象は強く、心に訴えるものがあると思います。

では、新聞を使って漢字をどのように学んだらよいでしょうか、低学年から可能な例を挙げてみます。

◎二画の漢字を紙面から探そう

新聞のある面（ページ）から、すでに習った二画の漢字を探し出して蛍光ペンで塗らせます。一つの記事に限定してもよいです。同じ漢字が出たら何度でも塗らせます。小学校1、2年生でやるときは、「画」について説明してから探させるとよいでしょう。低学年で習う漢字には「九」「七」「十」「人」「二」「入」「八」「力」「刀」「丁」などがあります。

ページや記事を限定せず、1日の紙面全体の記事（広告を除く）の見出しから、二画の漢字を探させることもできます。4月3日の朝刊の見出しには、「入」「二」「力」「人」「丁」「刀」が使われていました。

ちなみに、漢数字は見出しだけでなく本文でも最近はあまり見かけません。数量や日時などに洋数字を使うようになったからです。連載小説には漢数字がよく出てきますので、これらの載っている紙面を探させるとよいでしょう。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）